

令和4年度 江戸川区立鹿本小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

【資料②】

学校教育目標	◎考える子 ○やさしい子 ○たくましい子 ～わくわく鹿本小学校～	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○自分の考えをもち、表現し、学び合い、考えを深める児童 ○思いやりの心をもつとともに、自律心を高める児童 ○運動を楽しみ挑戦するとともに、健康管理できる児童 ○伝統ある自校に誇りと愛情をもつ児童	【考える子】 【やさしい子】 【たくましい子】
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞昨年度、算数科の校内研究を行った。習熟度別に学習の仕方を考え、児童に合わせた授業を行ったことで、課題に取組む意欲や思考力が向上した。 ＜課題＞1時間の中で学習したことや既習事項のような基礎・基本となる部分の定着を図ることができなかった。			

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	年度末に向けた改善策
					取組	成果		
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「読み」「書き」「計算」の定着の徹底 ・学力調査結果分析に基づく学力向上推進プランの作成	・週1回の朝学習タイムを中心に、eライブラリ、東京ベシック・ドリルに取り組み、学習カルテで進捗を確認し、基礎・基本の定着を図る。 ・学力調査分析を基に、全学年で取り組む学力向上の重点を絞ってプランを作成し、校内OJTで理解を深め、重点を日々の授業に反映させる。	・年間35回、朝学習を行い取組ませる。 ・学期の終わりに、必ず進捗状況を確認する。	B	B	・基礎・基本の定着に関しては、反復学習が一番だと考えており、度合いを図るのは全国学力テスト等だと思う。結果のフィードバックをお願いしたい。 ・アンケートの結果の数値が高いので、そのまま続けてほしい。	・朝学習やeライブラリなどで反復学習を続けていく。
	体力の向上	・体力調査分析に基づく年間体育の見直し・改善 ・体力調査分析に基づく授業改善	・体力調査結果を受け、休み時間の運動(鹿ノビック、運動遊び、なわび週間、マシオン週間等)の取組内容を見直す。 ・体力調査結果分析について校内OJTで理解を深め、授業作りに反映させる。	・年間35回、行間体育を行う。 ・参加率100%を目指す。	A	B	・今年度は年間35回の行間体育を行うことができなかったため、来年度は計画的に行う。 ・休み時間に教室で過ごしている児童も見受けられる。さらに声掛けを行い、外で遊ぶ児童を増やしていく必要がある。	・鹿ノビックなど、新しい試みで子供たちの体力向上に努めてほしい。 ・休み時間、教室の電気を消すようにしたら外に出るようになるのでは。 ・黙々と子供たちに運動させている点が気になった。できない子に対する対応を厚くお願いしたい。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 ・巡回図書館と連携した読書科の推進	・読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連付け等を行っている。 ・図書担当が読書科についてのOJTを行い、進捗の状況を確認する。 ・巡回図書指導員と連携し、学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実を図る。	・学期に1回、読書を通じた探究的な学習を設定する。 ・年に2回、進捗状況の確認を行う。 ・年間に2回、読書科に関するOJTを行う。	B	B	・他教科と関連付けて、読書を通じた探究的な学習を設定し、取り組むことができた。 ・読書科についてのOJTや巡回図書指導員との連携を計画的にすすめていく。	・読み聞かせを行う保護者と連携を取り、各クラスで読み聞かせを行えるよう、計画する。
	ハイブリッド型の推進	・「個別最適な学び」と協働的な学びのバランスの良い授業の推進 ・デジタルとアナログのバランスの良い授業の推進	・1単位時間または単元の中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランスよく組み合わせ合わせた授業を実施する。 ・1単位時間または単元の中で、デジタルとアナログをバランスよく組み合わせ合わせた授業を実施する。その際、本書は1時間の学習の流れが分かるものにする。	・全体の90%以上実施する。	B	B	・タブレット端末を利用したり、黒板や模造紙等を利用したり、それぞれの授業で適切な方法を組み合わせることができた。 ・全教員がICT機器を活用し授業に取り組んでいる。	・上手にICT機器を取り込んでほしい。 ・タブレットの効果的な使用方法を模索し、取り入れていって欲しい。 ・タブレット端末を使って勉強するのは、これからの社会生活をする上でもデジタル社会に益々なると思うので必要性を感じる。
特別支援教育の充実	課題の未然防止・早期発見・早期対応	・年2回のHyper-QUを活用した学級状況の分析 ・年3回いじめ調査の実施 ・いじめ防止基本方針に基づく組織的な対応	・5月、12月にHyper-QUを実施し、傾向や課題を学級経営に生かすとともに、生活指導夕会で情報共有する。 ・6月、12月、2月にいじめ調査を実施して未然防止を図るとともに、案件は継続対応する。 ・いじめが発生した場合には、いじめ防止基本方針に基づき直ちにいじめ防止校内委員会を発足させて早期対応に当たる。	・年間2回QUテストを実施する。 ・いじめ解消率100%を目指す。	A	A	・年間2回のQUテストを行い、学級経営に生かすことができた。 ・いじめ調査を行い、いじめに関する聞き取りを行いほとんどの事実に関しては解決することができた。1件だけ継続対応中である。	・蓄積したデータを分析して活用してほしい。 ・各個人の名前を「さん」付けにすると、いじめが無くなる。 ・いじめを発生させないというのは不都合と思っている。発生を先生がいち早く察知し、くさびを打って頂くことが重要だと思う。 ・QUテストなどを行い、子どもたちの状態を知る事は、いじめの早期発見になるので、これからも続けてほしい。
	共生社会の実現に向けた教育の推進	・組織的な特別支援教育の推進 ・縦割り班活動の活性化 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた応じた指導の充実、エンカレッジルームの活用	・校内委員会を中心にSC、巡回指導、心理士、関係機関と連携を図り、学校全体で配慮を要する児童の支援に当たる。 ・子鹿班活動、スクールバンピ等による異学年交流を活性化させ、思いやりや協力の心性を育む。 ・不登校児童の支援の際に使用する。	・特別な支援を必要とする児童に対してエンカレッジの体制を組み、学校全体で対応に当たっている。 ・スクールバンピの活動も3学期から始めることができた。今後さらに活動を広げていきたい。	A	B	・特別支援を必要とする児童に対してエンカレッジの体制を組み、学校全体で対応に当たっている。 ・スクールバンピの活動も3学期から始めることができた。今後さらに活動を広げていきたい。	・今後も支援が必要な児童に対し、全教員が関わり、個々の児童に対応していく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	子供たちの健全育成	・道德地区公開講座の活性化 ・週的生活目標の徹底	・テーマを絞った授業公開をするとともに、保護者・地域と連携した意見交換会を実施する。 ・生活指導夕会等の情報から週ごとの課題となる生活目標を設定し、全校で指導の徹底を図る。	・意見交換会の参加率を70%以上にする。	B	B	・参加者の増加のために、内容・周知の工夫をしてほしい。 ・本部からの応援がなくても集まるよう、考えていきたい。PTAからも応援してほしい。 ・保護者や地域との連携はとても大事だと思うので続けてほしい。	・道德授業地区公開講座の人数を増やすために、年度末に向けて、来年度の実施方法や内容について計画を立てる。
	学校関係者評価の充実	・学校評議員会と連携した学校作り	・年3回の学校評議員会を実施し、教育課程に対する意見をいただき、地域に開かれた学校づくりを行う。	・年間3回の学校評議員会を実施し、学校の教育課程や教育活動に対する意見をいただき、学校運営に生かしている。	A	A	・スライドなど利用して説明していただき分かりやすい、地域の声もとても重要だと思う。評議員会という貴重な場をお互いに大切にしていきたい。 ・先生方の努力を応援する。これからも子供たちの指導をよろしくお願ひする。	・学校評議員会で作された意見を基に、来年度の教育計画を作成していく。
	学校応援団との連携	・学校応援団との連携した学習支援	・学校応援団(学習ボランティア、お話バンピ)と打ち合わせをし、きめ細かい学習支援を行う。	・今年度、コロナ禍の影響のため、十分に学校応援団の活動をするにはできなかった。お話バンピの活動は徐々に再開し、3学期には読み読みの活動をする事ができた。	B	B	・コロナが少しずつ減ってきているので、活動を再開して欲しい。 ・活動内容の充実を図ってほしい。 ・学校応援団のボランティアの方の活用をお願いしたい。	・来年度を見通して、学校応援団でどのような活動ができるのかを確認し、来年度の計画を作成する。
	PDCAサイクルによる改題改善	・学校評価に基づく学校改善 ・「先生の通知表」に基づく指導改善 ・使命を明確にした組織作り	・学校評価を受けた次年度計画を作成するとともに、2月の学校評議員会、3月の保護者会にて提示する。 ・7月、12月、3月に実施し、教員の指導の振り返りに生かす。 ・学校経営方針に基づく校務分掌及び学校評価により、教員の使命を明確化する。	・学校評価回収率を95%以上にする。	A	B	・今年度からFormsを使った学校評価を行ったが、回答率が低かった。来年度は、さらに回答率を高める方法を考える必要がある。 ・新しい方法を使うことはとても良いことだと思う。これからも認知度を上げるように頑張りたい。	・様々なアンケートを行うときに、Formsを使って行えるようにする。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	・ライフワークバランス推進	・一斉退勤日を週に1回、必ず設定する。 ・会議は45分以内で終わらせられるようにする。	・一斉退勤日を週に1回、必ず設定する。 ・会議は45分以内で終わらせられるようにする。	A	B	・一斉退勤日には、必ず掲示を行い、教職員に意識づけを行うことで、残業の時間が少しずつ減っている。 ・会議も短時間で終わらせるようになっている。 ・教職員の意識付けをお願いしたい。 土曜日、出勤されている先生をちらほら見かける。やはり、クラス担任は負担が高いのではないだろうか。教科担任制の導入を推進していきたい。 ・先生方の負担を少なくする試みは素晴らしいことだと思う。	・働き方改革をさらに進めていく。 ・見直しをもって計画的に仕事を進められるよう、教員に意識付けを行う。
	交流学習の推進	・朝陽第三小学校との交流学習の実施 ・鹿本学園との交流学習の実施	・オンライン等を活用した5年生による朝陽第三小学校との交流を実施する。 ・4年生による都立鹿本学園との交流学習を実施する。	・年3回、交流を実施する。	A	A	・都立鹿本学園とオンラインによるポッチャ大会を行い交流を深めることができた。 ・良い経験だと思う。 ・オンラインではなく、実際にポッチャ大会出来れば良いと思う。 ・これからも交流をお願いする。	・今回の経験を活かし、来年度の交流計画でどの時期にどのような交流を行うか計画する。
組織的な授業力の向上	「3段階の読み」による読解力の向上	・「3段階の読み」による読解力の向上	・物語文における「3段階の読み」の研究授業を実施する。 ・「3段階の読み」を授業に取り入れるとともに、自己申告(中間)の授業他で公開する。	・各学年 年1回以上実施する。	A	A	・各学年、年1回の研究授業を行った。 ・各担任が国語科において「3段階の読み」を取り入れた授業を行い、授業力の向上を図ることができた。 ・児童への展開と結果を期待している。 ・読み3段階、非常に興味深く聞いていた。子供に定着することを期待している。 ・国語力をつけるのは、コミュニケーションをとるためにも必要なことだと思う。	・校内研究を計画通り進め、今年度の成果と課題についてまとめる。 ・研究紀要を作成し、次年度の研究につなげる。